

ピアノ演奏課題における興味価値とフロー体験

○中川 小耶加[†] 三宅 祐美[†] 片平 建史[†] 長田 典子[†]

関西学院大学 大学院理工学研究科[†]

1 緒言

熟練動作の獲得あるいは学習効率の研究分野において、学習者が主体的に学ぶ態度に関して、動機づけ (motivation)の問題が多く研究されてきた。しかしながら、動機づけは、従来の内発-外発の枠組みでは学習に対する意味づけや価値づけの多様性を捉えることに適さないことから、統合的に学習動機づけを捉える研究が増えており、とりわけ主観的課題価値 (Subjective Task Value)^[1]に注目が集まっている。学習者の課題価値に関する研究は学習目標に対する志向性や価値を従来の研究と同じように教育場面で尋ねる研究が多く、実際に課題遂行時に測定する研究はほとんどない。

一方、フローは Csikszentmihalyi^[2]によって提唱され、フロー状態を体験することによって、得られる喜びや充実感は極めて大きくなり、更なる課題への挑戦エネルギーになるとも考えられている。しかしながら、対象者はフローを体験しやすいスキルのある人、すなわちエキスパートを対象にしており、ノンエキスパートを対象とした研究は極めて少ない。

本研究では、熟練動作の獲得の中でもピアノ演奏に焦点を当て、ノンエキスパートがフローを体験するか、また課題価値の中でもとりわけ興味価値とのフロー関連性を明らかにする。併せて、興味価値とフロー体験は継続するののかも検討する。

2 ピアノ価値測定実験

2.1 実験手続きおよびピアノ演奏課題

実験参加者は過去にピアノ学習経験があり、直近5年以上ピアノを含む楽器の練習を行っていないノンエキスパート男性6名、女性6名、計12名(平均年齢 23.16 ± .89 歳、全員右利き)であり、ピアノ演奏課題曲1時間の練習を5回行った。ピアノ演奏練習前後にアンケート調査を行った。本実験でのピアノ演奏課題曲はキラキラ星変奏曲 (Wolfgang Amadeus Mozart, 1778)であった(Fig. 1)。ヤマハ電子ピアノ(P-250)を用いた。各練習時間のはじめには必ず冒頭24小節の練習を実施したのち、自由に演奏課題曲を弾くよう教示した。

[†]Significant positive correlate with the interest value and flow experience during piano playing

[†]Graduate School of Science and Technology, Kwansai Gakuin University.



Fig.1 The scores displayed for practice from “Ah, Vous diraije, maman” by Wolfgang Amadeus Mozart (1778). Participants required to play the opening 24 bar every session when they start a session.

2.2 課題価値測定尺度およびフロー体験チェック・リスト

実施したアンケートは、下記の通りである。ピアノ演奏練習前では伊田^[3]が作成した課題価値測定尺度の5因子の内3因子(興味価値, 私的獲得価値, 公的獲得価値), 計18項目であった。ピアノ演奏練習後では、石村^[4]が作成したフロー体験チェック・リスト3因子(能力への自信, 肯定的感情と没入による意識経験, 目標への挑戦), 計10項目であった。

1. 学んでいておもしろいと感じるような内容	2. 学んでいて満足感が得られる内容
3. 興味を持ってまなぶことができるような内容	4. 学んでいて好奇心がわいてくるような内容
5. 学んでいて楽しいと感じられる内容	6. 学んでいて知的な刺激が感じられるような内容
1. チャレンジ(挑戦)している	2. うまくやる自信がある
3. 目標に向かっている	4. うまくいっている
5. 完全に集中している	6. 思いのままに動いている
7. 我を忘れている	8. コントロールできている
9. 時間を忘れている	10. 楽しんでいる

Fig.2 These questioners scales, upper part is interest value of the Academic Task Value by Ida (2001) and bottom part is the Flow Experience Check List by Ishimura (2008).

3 実験結果

3.1 課題価値測定尺度とフロー体験チェック・リスト

課題価値測定尺度およびフロー体験チェック・リストの各因子の平均得点および標準偏差を求めた(Table. 1)。その結果、課題価値測定尺度の興味価値は5.38点、フロー体験チェック・リストの全因子の平均得点は5.13点であった。

3.2 相関関係と継続意志

課題価値測定尺度3因子とフロー体験チェック・リスト3因子の相互相関の結果を Tabel.2 に示す。そ

の結果, 興味価値とフロー体験の全因子のみに正の有意な相関がみられた ($.42 < r < .57, p < .01$).

Table.1 Task Value subscale and Flow Experience Check List means and standard deviations

	M	SD
Public Attainment Value	4.70	0.90
Interest Value	5.38	0.75
Personal Attainment Value	4.61	0.91
Capability of Skill	4.46	1.21
Positive Emotion and Absorption	5.18	1.14
Challenge to Goal	5.75	0.51

ピアノ学習効果の向上に關与する継続意志について平均得点と標準偏差を算出した (平均 3.73, SD .97). また, 継続意志と課題価値測定尺度およびフロー体験チェック・リストにおいても相互相関を算出したところ, 継続意志と興味価値および私的獲得価値, 肯定的感情と没入による意識経験および目標への挑戦で有意な正の相関がみられた ($.38 < r < .71, p < .01$).

Table.2 Correlation between the Academic Task-Value and the Flow Experience Checklist or Expectation to next practice. (N =12)

	Task Value			Flow Experience			ENP
	V.1	V.2	V.3	F.1	F.2	F.3	
Public Attainment Value (V.1)	—	0.34	0.60	-0.04	-0.13	0.25	0.10
Interest Value (V.2)		—	0.67	0.42	0.57	0.43	0.64
Personal Attainment Value (V.3)			—	0.21	0.22	0.17	0.38
Capability of Skill (F.1)				—	0.40	0.38	0.24
Positive Emotion and Absorption (F.2)					—	0.37	0.71
Challenge to Goal (F.3)						—	0.45
Expectation to next practice (ENP)							—

$p < .01^{**}$

さらに, 各因子の平均得点のスコア変化についてセッションごとの混合計画の2要因分散分析をおこなった. その結果, 能力への自信にのみセッションにおける交互作用がみられ, Bonferroni における多重比較の結果, 1st sessionと5th sessionに5%水準で有意な差が認められた. 各セッションの平均値を示す (Figure.3).

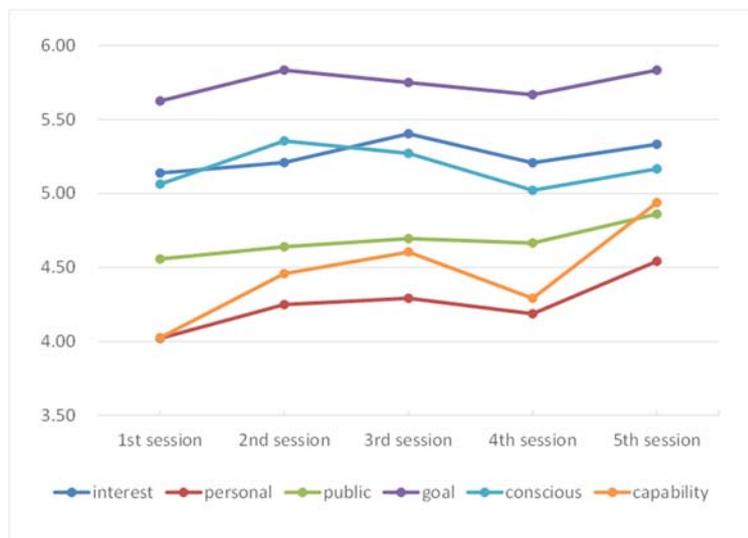


Fig.3 Time-varying , interest value (blue), personal attainment value (red), and publicly attainment value (green) at the Academic Task Value, challenge to goals (purple), positive emotions and absorption (sky blue), and capability of skill (orange) at the Flow Experience Check List.

4 考察および結語

本研究の結果より, ノンエキスパートはピアノ演奏練習に高い関心をもっており, 充実感が得られることを予期していたと考えられる. また, 実際に課題に取り組むことで, 比較的深いフローを体験していることが示唆された. 相互相関の結果から, 興味価値とフロー体験とは関連があり, 継続意志を示す要因であると考えられる. また実験者の教示内容が, 「毎練習時間, 冒頭 24 小節をはじめに必ず弾くこと」のみであったため, ノンエキスパートは自身の基準に基づき目標を立て, 集中し演奏練習を行い続けていたと考えられる.

本研究の結果, (1)高い興味価値を持つノンエキスパートは比較的深いフローを体験すること, (2)継続し練習を行うことで能力への自信がついたことが明らかとなった. 課題演奏曲は誰もが一度は耳にしたことのあるフレーズから始まるため, ノンエキスパートにとって興味が持ちやすく, 没頭して弾き続けられたのではないかと推測される.

今後の研究では, ノンエキスパートのスキル獲得がどれくらい実際になされているのか生理計測によって定量的に検討を行うとともに, 課題演奏曲の選定についても詳細に検討していく必要がある.

引用文献

- [1] Eccles, J. & Wigfield, A. (1985). Teacher expectations and student motivation. In: Dusek, J. B. (eds.) Teacher expectation, pp185-226. Hillsdale, N. J.: L. Erlbaum.
- [2] Csikszentmihalyi, M. (1975). *Beyond boredom and anxiety*. San Francisco: Jossey-Bass.
- [3] 伊田勝憲. (2001). 課題価値測定尺度の作成の試み 名古屋大学大学院博士論文.
- [4] 石村 郁夫. (2008). フロー体験の促進要因とその肯定的機能に関する心理学的研究 筑波大学大学院博士論文.